

CONTENTS

- 01 | サッカー部×美幌町
- 02 | スポーツセンター
- 03 | 就職活動
- 04 | 地域との連携「スポーツモリアゲ隊」
- 05 | 課外活動への補助  
R8キャンパスカレンダー & 保護者懇談会

## 学生と地域の連携が学びと活性化に繋がる サッカー部×美幌町のエデュケーションプログラムを実施！

学生が主体的に地域に関わり、学びを深め、地域の活力を向上させることを目的に、サッカー部と美幌町によるエデュケーションプログラムが実施されました。

今回は、本プログラムに参加した男子・女子サッカー部の4名と、特別支援教育が専門の小嶋教授に、特に印象に残った交流エピソードを中心に話を伺いました。

### 札幌大学と美幌町の関わりときっかけ

札幌大学と美幌町は、これまで学生が現地活動を通じて学び地域活力を向上させる「エデュケーションプログラム」、就業体験を通じて就労意識を育む「インターンシッププログラム」など、様々な取組みを展開してきました。

令和7年度は、9月に男女サッカー部16名が美幌町を訪問し、エデュケーションプログラムを実施。「美幌町の予備知識は何もありませんでしたが、純粹に面白そうだと思います」と藤本さん。女子のリーダーを務めた山口さんは「最初は不安もありましたが、もともと地方遠征が好きだったので、行ってみたいなと思いました」。植木さんは「子どもが好きで内容にも興味があったので参加を立候補しました」と言います。

こうして集まったメンバーは、当日に向け、美幌町の現状や課題の共有、小嶋先生から児童や高齢者と接する際の心構えについて指導を受けるなど、入念な事前学修を行いました。

### エデュケーションプログラムがいよいよスタート！

迎えた当日、美幌町役場への表敬訪問の後、最初に訪れたのは放課後児童デイサービス。事前学修で得た知識を活かしながら、子どもたちと楽しい時間を過ごしました。

「壁に自由に絵を描く“ペイント”という企画がありました。一緒に遊ぶうちに打ち解けて、私の体にもペイントされましたよ」。植木さんはこれで一気に人気者になり、周囲の子どもたちも大爆笑でした。

山口さんは「私から積極的に話しかけることで、おとなしい雰囲気の子が笑顔を見せてくれました。有意義な交流ができたと思います」と振り返ります。楽しい時間はあっという間に過ぎ、子どもたちは学生との交流を名残惜しそうにしていたそうです。



放課後児童デイサービスの児童と交流

### インタビュー参加者



(左から) 小嶋 義勝 教授  
山本さくらさん (法学専攻2年生)  
山口ヒカルさん (スポーツ文化専攻3年生)  
藤本 啓志さん (スポーツ文化専攻2年生)  
植木 海力さん (スポーツ文化専攻1年生)

### 一緒に楽しむことを心掛けた、子どもたちのひととき

子どもたちの心を早くも掴んだサッカー部一行が、翌日訪問したのは美幌小学校。ここでは体育の授業に学生がゲストティーチャーとして参加し、児童87名の指導を行いました。藤本さんは、「事前にみんなで話し合い、指導内

容を決めて臨みました。サッカーを楽しいと感じてもらえるよう、一緒に体を動かすことを心掛けました」と言います。

「最初はお互いに遠慮がちでしたが、自分たちから積極的に声を掛けて距離を縮めました。特に効果的だったのはドリブルリレーで負けたチームに罰ゲームを設けたことです」と、山本さんが説明してくれました。

「小学生と私たち大学生の混成チームで競ったんですが、負けたチームは大学生が代表して、大声でバンザイと叫ぶというルールにしたんです。恥ずかしい気持ちを捨てて、全員でバンザイバンザイと叫んだところ、これが子どもたちに大ウケでした」と、一同は思い返して大笑い。学生にとっても良き思い出になったようです。

その翌日は、旭小学校で再び体育の授業に参加。小学校は違うものの、子どもたちと同じ目線に立ち、サッカーを楽しんでもらえるよう指導を行いました。

その後、美幌 UFO サッカースポーツ少年団でサッカー教室を実施。「クラブチームなのでレベルも高く、教えるというより、プレーを通して学んでもらうという気持ちで指導しました」と植木さん。



サッカースポーツ少年団へのサッカー教室

山本さんは、「少年団のほとんどは男子なんですが、その中に数名の女子がいたんです。私も中学生の頃、女子が少ない中でプレーしていたので、気持ちが想像できました。それで私の方から声を掛け、頑張ろうねと励ましました」。

学生と子どもたちの、こうした交流が地域貢献の第一歩に繋がっていくことでしょう。

### 無くしたくない札大生の良さ、 一步踏み込んでいく行動力

最終日は高齢者デイサービスを訪問し、利用している高齢者の皆さんと楽しいひとときを過ごしたようです。

「お邪魔したその日は、ちょうど施設の夏祭りイベントでした。パン食い競争や玉入れなど利用者さんと一緒に参加し、交流を深めました」と話す藤本さん。その藤本さんが忘れられないのは、あるおじいさんのこと。「施設にご自分のアルバムを持参され、それを見ながら昔の話を伺いました。世代を超えた交流ができました」と、微笑ましいエピソードも。



高齢者デイサービスの利用者との交流

山口さんは、本プログラムのふり返しを行う意見交換会

で美幌在住の札大 OB と地域の現状について話をしたそうです。

「美幌町を出て働く若者が多い中、その方たちがここで働く理由を聞いて、地方の抱える問題や、だからこそのやりがいを知りました。それがきっかけで、地域振興について考えるようになりました」。

植木さんもまた、「日頃は先生や友人など、大学内の人しか交流がありませんが、こうしたプログラムで、地域社会の皆さんとコミュニケーションをとれたことは、学んだことも多く、また参加したい」と言います。

山本さんは、「美幌に行くまでは漠然とサッカーをやっていました。試合にも出場できず、目標を見失いかけていたんですが、子どもたちと触れ合ううちに、もっと自分自身がサッカーの知識や技能を高めて、それを基にコミュニケーションがとれるようになりたいと思いました」。藤本さんは「サッカー部は部員数が多いのですが、普段あまり交流のない部員とも今回のプログラムでじっくり話すことができました。美幌町の皆さんだけではなく、身近な人たちとも親しくなれたので、人の輪が広がったことは今後の大学生活にも活かせる大きな収穫でした」と話します。



OBOG・地域の方との意見交換会

最後に、引率の小嶋先生に総括していただきました。

「私は特別支援教育を担当しており、教職に関わる学生の指導が主になっていますが、子どもたちや高齢者と学生が交流する様子を見て、やはり札幌大学の学生の良さを無くしてはいけないと思いました。始めは誰もが良き個性を発揮して、人と関わっていけるのか案じていましたが、その心配は杞憂でしたね。札大生には「先ずやってみよう」というチャレンジ精神があります。物怖じしないんですね。今回も一歩踏み出す行動力、それを地域交流に活かしてくれました。先ほど植木くんが言っていた初日のペイント。まさに体当たりで、みんなを楽しませてくれました。今回参加した学生は、地域交流という大きな目標の前に、まずは自分たちの殻を破って楽しもうという姿勢がありました。2日目の授業も最初は硬さがありましたが、みんな修正力もあって、子どもの心を掴むのが上手でしたね。一緒に遊ぶうちに、子どもたちの目の輝きが、どんどん増していくのがわかりました。座学では得られない、実体験をもとに多くのことを学んでくれたようです。それがこのエデュケーションプログラムの本質なんですね。今回のメンバーはそれを具現化してくれました」。

この経験を今後も活かしてほしいというのは、小嶋先生をはじめ、教職員全員の願いです。美幌町の教育委員会の方も、大学生が来て地域に活気が生まれたと、確かな手応えを感じていただけたようです。今後も本学の大切な取り組みにしていきたいと、小嶋先生は決意を新たにしています。

## 特集 「札幌大学スポーツセンター」

### スポーツセンターとは

令和7年4月1日、「**札大のスポーツを活性化**する」「**札大をスポーツで活性化**する」「**スポーツで学生を活性化**する」という3つの理念を掲げ、設置されました。札幌大学のスポーツ資源を最大限に活用し、学生の人材育成と大学・地域社会の活性化に寄与することを目指しています。

### 講演会・研修会

#### ○アンチ・ドーピング研修会 令和7年4月8日(火)

公益財団法人北海道スポーツ協会副会長の笠師久美子氏を講師に招き、薬の正しい知識や基礎知識について学びました。

#### ○「生理とスポーツ」研修会 令和7年4月15日(火)

北海道大学病院産婦人科医の小林範子氏らの講演とパネルディスカッションを通じ、女性アスリート特有の健康課題への理解を深めました。

#### ○スポーツセンター設置記念講演会 令和7年6月25日(水)

元バドミントン日本代表の永原和可那氏より、目標設定や対話の重要性について貴重なお話を伺いました。



#### ○(株)ペイロール×(株)レバンガ北海道×札幌大学スポーツセンター講演会 令和7年9月25日(木)

元バスケットボール男子日本代表で(株)レバンガ北海道代表取締役社長の折茂武彦氏を講師に迎え、現役時代の信念や経営者としての経験についてご講演いただきました。

### 自主事業

#### ○チームビルディング研修

令和7年9月4日(木)・9月27日(土)・10月4日(土)

学生46名が野外活動に挑戦。組織を超えた対話を通じて課題に取り組み、役割遂行の重要性を学びました。



#### ○「ワンコイン(100円)朝食会～みんなで朝食キャンペーン～」 令和7年10月21日(火)～23日(木)

札幌市や日本ハム(株)、大学生協等との連携により、朝食を100円で提供しました。友人と楽しく過ごしながら、健康的な食習慣の定着を図る取組みとなりました。

### 地域の方々との交流事業

以下の交流事業では、課外活動等の学生ボランティアが運営補助として、準備や進行、競技のサポートに取組み、大学と地域がつながる場となりました。

#### ○エンジョイスports体験会 令和7年6月21日(土)

玄天祭(大学祭)と同時開催。小学生以下を対象に、ストラックアウトや走り方教室等で身体を動かす楽しさを伝えました。



#### ○ニュースポーツ体験交流会 令和7年10月18日(土)

「モルック」と「ダブルディスクコート」の2種目を体験する交流会を実施しました。幼児から高齢者まで幅広い世代の方々との交流を深めました。



#### ○室内雪合戦交流大会 令和8年1月31日(土)

地域の小学生から大人までを対象に開催。各チームで絆を深めながら、室内での熱戦を繰り広げ、大いに盛り上がりました。

「札幌大学スポーツセンター」では、今後もスポーツを通じた学修機会や学生が協働し挑戦する機会を創出し、大学および地域社会の活性化に繋がる取組みを進めていきます。今後の活動にもご期待ください！

# 就職活動のスタートライン！ ～「札幌大学企業研究会」を開催～

開催日／令和7年12月6～7日、令和8年2月12～13日  
場 所／札幌大学会館リンデンホール

今年度も、3年生を主な対象に「札幌大学企業研究会」を開催しました。

本イベントは、本学学生の採用を希望する企業を招き、今後の就職活動に対する意識の向上を図ることを目的に実施しているものです。OG・OBが在籍する企業をはじめ、幅広い業界の企業にご参加いただき、毎年多くの学生が業界や仕事の理解を深める機会として活用しています。

毎年度2月に各教室を会場として開催していましたが、



札幌大学企業研究会の様子

今年度から12月と2月の2回に分け、広々とした学内のホールで実施しました。4日間で企業123社にお越しいただき、延べ627名の学生が参加しました。

参加した学生からは、「目を向けていなかった企業を知る良いイベントだった」「企業の特徴を知り就活のイメージが鮮明になった」「将来について考える機会になった」などの感想が寄せられました。また、参加企業の皆さまからも、「メモを取りながら話を聞く学生が多く感心した」「12月からの開催は、学生が就職活動をスタートするタイミングとして大変ありがたい」といった声をいただいています。

就職課では、1年生からでも参加できるキャリアイベントを随時開催し、職員が学生一人ひとりに寄り添いながら就職活動を支援しています。

## 就活生インタビュー 武器は「継続力」。志望企業へ全力、邁進中！

経済学専攻3年生 富田創汰朗さん

近年、少子化に対し企業の採用意欲は高くなりつつも、就職活動は決して楽なものではありません。今回は、本学のキャリアサポートセンターを利用しながら、志望企業への就職に向かって励む、富田創汰朗さんにお話を伺いました。

### Q 就職活動はいつから始めましたか？

A 2年生の春に合同企業説明会に参加することから始めました。きっかけは、所属している剣道部の先輩方の姿です。早くから情報収集することが内定獲得の第一歩だという先輩のアドバイスもあり、参加しました。

### Q 志望する職種や業界はどのように決めましたか？

A 営業職に興味がありましたが、最初から業界を絞ることはしませんでした。不動産業や自動車販売業など、さまざまな業界のインターンシップに参加し、自分の適性を確認していきました。その中で、アルバイト経験との共通点や、社員の方々の雰囲気良さから、現在は飲料メーカーの会社を志望しています。

### Q これまでどのような就職活動を行ってきましたか？

A 情報収集がなにより大切だと思い、キャリア実習、オープンカンパニー、インターンシップ等に積極的に参加しました。キャリアサポートセンターにも頻りに足を運び、エントリーシートの書き方や模擬面接など、手厚くサポートしていただきました。利用し始めた当初と比べ、自分でも自信がついてきたと感じます。

### Q ご自身のアピールポイントはなんですか？

A 小学校1年生から続けている剣道です。高校では部長を務め、大学生の今も続けています。長年打ち込み

培った「継続力」に加え、「リーダーシップ」、「コミュニケーション能力」が自身の最大の武器です。

### Q 将来は、どんな社会人になりたいですか？

A 剣道やアルバイトの経験を通して、仕事においてもっとも大切なのは「責任感」と「信頼」だと学びました。どんな時も責任を持って仕事に向き合い、社内外の誰からも「富田なら任せられる」と信頼される社会人になりたいです。

### Q これから就活をはじめめる後輩にアドバイスをお願いします。

A 札大の就職支援はとても手厚いので、早い段階からキャリアサポートセンターに相談に行ってみてください。私もまだ就職活動中ですが、幅広い視野を持って、多くの選択肢からキャリアプランを練ることが大切だと感じました。早くから企業説明会へ参加したり、友人と積極的に情報共有を行い、自分の適性に合った職種を見極めたいので、企業を選択することがポイントです。



富田さん

私は大学入学時から、英語を活かせる仕事に就きたいと考えていましたが、具体的な職業像は定まっておらず、学内の航空業界の講座や企業説明会に足を運び、幅広く業界研究をしていました。

大学2年次になり、「よりグローバルな環境で英語に触れたい」という思いから、外国人留学生のサポートを行う『国際交流ひろば』のボランティアへの応募を決意しました。当初はイベント参加が中心でしたが、次第に留学生のサポートにも関わるようになり、学外の外国人との交流も増え、日常的に多様な文化や価値観に触れる環境へと変化



小野さん

していきました。こうした交流を通して、英語で自分の考えを伝えられると気づき、自信ができました。同時に、さらに多くの表現や新しい言語を学びたいという向上心も芽生えました。

さまざまな経験を積む中で、人と話すことが好きであること、異文化に強い関心を持っていることを再認識しました。この気づきは、就職活動において業界を選ぶ際の重要な判断基準となりました。

本格的に就職活動を始めたのは4年次の5月です。企業説明会に参加し、就職課の職員の方とも面談を重ね、自身の性格や価値観、将来について改めて整理しました。

履歴書作成では、自己理解を深めるため、多様な経験から何を学び、どのように成長したのかを言語化することに苦労しました。メモに書き出し、何度も書き直し、就職課の職員の方に添削していただくことで、納得のいく履歴書を完成させることができました。

面接でも入念に準備を行い、最終面接では面接官の方から「とてもいい文章ですね」とお褒めの言葉をいただきました。その結果、8月上旬に語学を活かせるホテル業から内定をいただくことができました。

大学入学を機に、自分の選択次第で多くの経験が積めることに気付きました。これからも、自分のビジョンを実現するために何が必要なのかを考えながら、グローバルな人材を目指していきたいです。皆さんもぜひ、自分のやりたいことを見つめ直し、アクションを起こしてみませんか。

## 学生発案! 「内定者就活相談会」を開催

開催日/令和7年11月28日 場所/みらい共創スクエア

本相談会は、内定した学生の就職活動の体験談を通じて、学生のキャリア形成の意識向上を目的として、就職課の学生・ジョブ（学生アルバイト）の発案で実施されました。当日は公務員や高校教員、金融、卸売など幅広い業種から内定した6名が登壇しました。

前半のパネルディスカッションでは、「就職活動を始めた時期や準備」「苦労したこと」「エントリーシートや面接で意識したこと」について体験を紹介しました。参加学生からは「業界の違う内定者から違った答えを聞いた」「選考の流れや準備の仕方をリアルに知ることができた」といった声が寄せられました。

後半のグループ相談会では、小グループに分かれて活発な意見交換が行われ、参加者の今後の就職活動に向け大きな励みとなりました。



内定者によるパネルディスカッション



グループ相談会の様子

## 就職課 News

道内大学初!

## 秋田県と「就職支援に関する協定」を締結

青森県とは就活イベントを開催

札幌大学と秋田県は、令和7年10月1日付で、同県へのU・I・Jターン就職を希望する学生に対する就職支援協定を締結しました。本協定は道内大学として初の締結となります。

また、令和5年3月に協定を締結している青森県とは、令和7年12月11日に合同企業説明会「あおりプレ就活イベント2025冬」を開催し、24名が参加しました。青森県での就職を検討していない学生も参加でき、参加者からは好評でした。

本学の道外出身学生のうち東北地方出身者は約6割を占めており、今後も両県との連携を強化し、学生の就職支援の幅を広げていきます。



青森県庁の説明を受ける学生

# 「スポーツモリアゲ隊」が、豊平区の活性化に大きく貢献！ ～わくわくを創造する学生と地域の取り組み～

札幌大学の学生たちが地域と繋がり、スポーツを通じて豊平区を活性化させる活動団体「スポーツモリアゲ隊」。本学で結成された彼らは、地域住民や視覚障がい者が楽しめる「ウォーキングマップ」を作成し、マップを活用したイベント開催を目的に活動を展開してきました。今回は、この「スポーツモリアゲ隊」の学生2人と先生に、お話を伺いました。

## 「札幌大学スポーツモリアゲ隊」発足のきっかけと名前の由来

活動の元となるのは、『ありがとうの交換。』プロジェクト。本学の学生と教職員が協力して豊平区への地域貢献活動に寄与することを目的に、本学の地域連携課が立ち上げた事業です。新たな「わくわくを創造する力」を身につけた人材の育成に加え、地域活動を通じて、住民の方と多くのありがとうを交換できるよう名付けられました。



スポーツモリアゲ隊

「地域に貢献できる活動をやってみない？」と、石井先生が声を掛けたのは、のちに代表となる大山遊人さんでした。

「学んでいるスポーツ文化を活かして地域に貢献できるところに、意義深さや面白みを感じて参加を決めました」と大山さんは言います。

その後、富樫さんを始め3年生と2年生の計4人が続々と参加。総勢5人で「スポーツモリアゲ隊」が結成され、プロジェクトに応募しました。

命名は石井先生と大山さん。「プロジェクトの申請には名称が必要でしたので、大山さんと話し合っ、スポーツ

を学ぶ学生が、スポーツで地域を盛り上げる『札幌大学スポーツモリアゲ隊』と、キャッチーな名前にしました」。

## 検証ウォーキングで、マップの情報を収集

スポーツモリアゲ隊のメンバーは、スポーツ社会学を専門とする石井講師と、スポーツ運動学を専門とする岩本正姫准教授のゼミ生で構成されました。

「二つのゼミの専門分野から地域貢献に活かすのに最適だと思ったのが、ウォーキングマップの作成と、マップを使った地域でのイベント開催でした」と大山さん。

「もともとある豊平区のマップを参考にしつつも、他にないものを目指しました」と話すのは、中心となってマップを作成した富樫さん。メンバーの5人はさっそくルートを選定に着手。大山さんは、「まず札大をスタート地点としたルートを作成し、その検証から取り掛かりました」と話し、作成したコースを実際に歩いてみたそうです。

「私たちにはスポーツという共通項があるので、運動学的に裏付けのあるものにとしようと考え、距離と歩数、消費カロリーなどを測定し、そのデータもマップに載せることにしました」と富樫さんは言います。

さらに、「単なる地域のウォーキングマップにするのではなく、飲食店や公園、見どころも盛り込んだ楽しいマップにしよう」と、検証ウォーキングをしながら、ルート上にあるお店を訪ね、宣伝と協力を依頼しました。それがとても楽しかったです」と、大山さんと富樫さんは口を揃えます。



ウォーキングマップ調査

## インタビュー参加者



(左から) 富樫 怜さん (スポーツ文化専攻3年生)  
大山 遊人さん (スポーツ文化専攻4年生)  
石井 克 講師

それぞれの学生が手にしているのは、ウォーキングマップと豊平区長賞

## 視覚障がい者への配慮や防犯防災情報を含めたマップが完成！

企画はそれだけにとどまりません。「既存のマップにはない内容を目指すため、石井先生と岩本先生のゼミ生20名以上から意見をいただきました。その中から、視覚障がい者への配慮や、子ども110番の家、災害時の避難場所を示すなど、防犯・防災情報も盛り込むことにしました」

と、大山さん。さらに、「特に視覚障がいのある方に役立てて欲しいと思い、検証ウォーキングの際、ブラインドマスクを着けて歩く検証も行いました。歩道の広さや段差、点字ブロックなどを確認し、こんな情報があったらいいねという情報を、富樫さんにまとめてもらいました」。

「その他にも、北海道札幌視覚支援学校や北海道盲導犬協会など、有識者のところへヒアリングにも行きました。当事者視点での意見やマップの現実性についても意見をいただき、マップに反映しています。カラーは温かみのある暖色系で仕上げました」と富樫さんは言います。こうして完成した「西岡わくわくウォーキングマップ」は、他のマップにはない、盛りだくさんの内容になりました。

マップが完成し、スポーツモリアゲ隊が次に取り組んだのが、実際にマップのルートを歩く、プレイベントの開催でした。イベントには高齢者や視覚障がい者を含め、学生以外に20名ほどが参加予定でしたが、残念ながら当日は雨で中止。

「別の日にボランティア実習という授業に協力をいただいて、ブラインド体験を交えた学生によるウォーキングを行いました。点字ブロックの大切さや視覚情報の無い中での不安など、さまざまな感想が寄せられ、その後の授業にも活かされました」と、石井先生は述べています。



札幌視覚支援学校へのヒアリング

**道議会議員との意見交換、報告会では、豊平区長賞を受賞！**

また、例年開催している北海道議会との意見交換会に、今年度はスポーツモリアゲ隊が参加しました。大山さん、富樫さんの2人が代表して発表を行い、意見交換会は大成功だったと言います。

「気持ちは言葉で、実際の活動は動画で、正確に伝えることができたので、議員の方々にも感心していただきました」と大山さん。

その後、学内で『ありがとうの交換。』活動成果報告会



北海道議会での意見交換会

が開催され、応募した各団体が発表。障がい者への配慮、防犯・防災ガイドなど、地域にとって欠かせない情報を盛り込んだマップ作成と、それを基にしたウォーキングイベントの取組みは、同報告会で豊平区役所職員から高い評価を受け、「豊平区長賞」の受賞という荣誉に輝きました。

**わくわくが止まらない、メンバーの胸に膨らむ次なる構想**

「イベント終了後に、ご協力いただいた店舗に挨拶に行きました。次も期待していると言われ、とても嬉しかったです。こうして地域との繋がりを持ったことで、人間的にも一回り成長できたような気がします。来年度、もし予算や参加人数を増やして、もっと大きなイベントにできるなら、協力先も増やして、積極的に活動していきたい」と富樫さんは目を輝かせます。

「視覚障がいをお持ちの方から、来年度以降もこうした取組みが行われるなら、ぜひ協力したいとメッセージをいただいたんです。それがなにより大きな収穫でした」と、卒業後は道内の公立高校で教員となる大山さんは付け加えます。

富樫さんは、「マップのコースを延長したり、コースの種類を増やすだけでなく、協力機関や店舗など、参加していただける団体も増やして、豊平区の大規模なイベントにしたいです。マップに関しても、今回は点字ブロックを示す部分に立体シールを貼りましたが、予算がもっとあるなら本物の点字にしたい」と、構想が膨らんでいます。

「この活動で学生は見違えるほど大きく成長しました。メンバーが積極的に地域に飛び込んで交流できるようになった様子を見て、私自身も多くのことを学びました」と、石井先生は総括しています。

今回の取り組みで、地域と学生が繋がる基盤ができたことによって、今後さまざまな可能性が期待されています。これからどんな“ありがとうの交換”と、“わくわく”が待っているのでしょうか。今後もスポーツモリアゲ隊の活動から目が離せません。



プレイベントの様子



『ありがとうの交換。』活動成果報告会の様子

令和7（2025）年度 後援会から課外活動への補助一覧

令和8年2月現在

サークル名	大会名	期間	補助額
男女サッカー部	2025 年度第 49 回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント	8月31日(日)～9月6日(土)	780,000
	アットホームカップ2025 第23回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル	11月17日(月)～11月19日(水)	360,000
	第9回全日本大学サッカー新人戦	11月24日(月)～11月28日(金)	600,000
	ASTRO SPORTS presents 2025 年度第 74 回全日本大学サッカー選手権大会	12月4日(木)～12月6日(土)・12月14日(日)～12月18日(木)	810,000
	第34回全日本大学女子サッカー選手権大会	12月20日(土)～12月23日(火)	300,000
柔道部	東北・北海道対抗柔道大会	6月21日(土)～6月22日(日)	20,000
	全日本学生柔道優勝大会	6月27日(金)～6月29日(日)	255,000
	全日本学生柔道体重別選手権大会	9月26日(金)～9月28日(日)	255,000
	全日本学生柔道体重別団体優勝大会	10月17日(金)～10月20日(月)	300,000
	講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	10月31日(金)～11月2日(日)	30,000
	湊谷杯全日本学生柔道体重別選手権大会	11月13日(木)～11月17日(月)	20,000
スケート部	第26回大学アイスホッケー交流戦苫小牧大会	9月1日(月)～9月7日(日)	185,000
	第98回日本学生氷上競技選手権大会アイスホッケー競技会	12月22日(月)～12月27日(土)	200,000
男子バレーボール部	東日本バレーボール大学選手権大会	6月23日(月)～6月26日(木)	360,000
	JVA 第7回全日本ビーチバレーボール U-23 選抜優勝大会	7月24日(木)～7月26日(土)	45,000
女子バレーボール部	2025 年度第 26 回西日本大学バレーボール学連選抜対抗戦	12月25日(木)～12月29日(月)	25,000
女子バスケットボール部	第77回全日本大学バスケットボール選手権大会	12月5日(金)～12月10日(水)	340,000
チアリーディング部	第37回全日本学生チアリーディング選手権大会	12月12日(金)～12月14日(日)	25,000
剣道部	第73回全日本学生剣道選手権大会	7月3日(木)～7月7日(月)	75,000
	第44回全日本女子学生剣道優勝大会	11月7日(金)～11月10日(月)	140,000
	第73回全日本学生剣道優勝大会	11月14日(金)～11月17日(月)	200,000
準硬式野球部	第43回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会	11月13日(木)～11月18日(火)	120,000
	第4回全日本大学準硬式野球東西対抗日本一決定戦甲子園大会	11月18日(火)～11月22日(土)	25,000
卓球部	2025 年度日本リーグ・日学連強化事業	4月11日(金)～4月13日(日)	15,000
	第94回全日本大学総合卓球選手権大会(団体の部)	7月2日(水)～7月6日(日)	450,000
	2025 年日本・韓国大学生卓球交流戦	8月13日(水)～8月16日(土)	20,000
	第91回全日本大学総合卓球選手権大会(個人の部)	10月20日(月)～10月23日(木)	380,000
	第21回全日本学生選抜卓球選手権大会	11月21日(金)～11月23日(日)	45,000
	天皇杯・皇后杯2026 年全国日本卓球選手権大会(一般・ジュニアの部)	2026年1月19日(月)～1月22日(木)	15,000
男女バドミントン部	令和7年度第68回東日本学生バドミントン選手権大会(個人戦)	8月25日(月)～8月29日(金)	340,000
	令和7年度第68回東日本学生バドミントン選手権大会(団体戦+個人戦)	8月22日(金)～8月29日(金)	575,000
	令和7年度第76回全日本学生バドミントン選手権大会	10月10日(金)～10月15日(水)	155,000
	令和7年度秩父宮・秩父宮妃杯争奪第76回全日本学生バドミントン大学対抗戦	11月6日(木)～11月9日(日)	225,000
	第94回日本学生陸上競技対抗選手権大会	6月3日(火)～6月8日(日)	150,000
陸上競技部	第47回北日本学生陸上競技対抗選手権大会	9月4日(木)～9月7日(日)	1,000,000
	第4回西田修平記念陸上競技大会	10月23日(木)～10月27日(月)	50,000
弓道部	第73回全日本学生弓道選手権大会・第56回全日本学生弓道遠の選手権大会	8月17日(日)～8月22日(金)	210,000
ハンドボール部	北海道学生ハンドボール連盟選抜ドイツ遠征	2026年2月17日(火)～2月25日(水)	315,000
	合計		9,505,000

令和8（2026）年度保護者懇談会（予定）

保護者懇談会では、大学への理解を深めていただくことを目的に、学生の修学状況、学生生活、就職状況等をご説明します。改めて開催案内をお送りしますので、ぜひご出席ください。



大塚知明会長 保護者と個別面談 在学生による発表

場所	会場	開催日	開催時間
札幌	札幌大学	6月6日(土)	保護者懇談会 11:30～14:00 後援会総会 10:00～
苫小牧	グランドホテルニュー王子	9月5日(土)	13:00～15:30
室蘭	室蘭市生涯学習センター「きらん」	9月6日(日)	10:00～12:30
函館	亀田交流プラザ	9月5日(土)	10:00～12:30
釧路	道東経済センタービル	9月12日(土)	10:00～12:30
帯広	帯広市商工会議所 帯広経済センタービル	9月13日(日)	10:00～12:30
旭川	道北地域旭川 地場産業振興センター	9月13日(日)	10:00～12:30
北見	北見経済センタービル	9月12日(土)	10:00～12:30
青森	青森県観光物産館アスパム	9月6日(日)	10:00～12:30
岩手	アイーナ いわて県民情報交流センター	9月5日(土)	10:00～12:30
宮城	TKP 仙台青葉通 カンファレンスセンター	9月6日(日)	10:00～12:30
札幌	札幌大学	9月26日(土)	10:30～13:00

令和8（2026）年度 キャンパスカレンダー

- 4 1日(水) 入学式  
春学期ガイダンス・オリエンテーション  
[3月30日(月)～4日(土)]  
6日(月) 春学期授業(～8月5日(水))
- 5 6日(水) 開学記念日
- 6 20日(土) 玄天祭(大学祭)
- 8 6日(木) 夏期休業[～9月23日(水)]
- 9 1日(火) 春学期卒業発表  
19日(土) 春学期卒業証書・学位記授与式  
24日(木) 秋学期ガイダンス・オリエンテーション[～25日(金)]  
26日(土) 秋学期授業[～2月3日(水)]  
12 27日(日) 冬期休業[～1月4日(月)]
- 3 1日(月) 秋学期卒業発表  
20日(土) 秋学期卒業証書・学位記授与式



入学式



卒業式

～広報委員会より～

後援会だよりは、今号から、これまでの新聞型から小冊子へとリニューアルしました。より読みやすく、親しみやすい紙面を目指し、デザインも一新。学生たちのいまと後援会の活動を丁寧にお届けして参ります。ぜひ隅々までお楽しみください。